

日本気象学会

平成3年度春季大会

会期：1991年5月22日（水），23日（木），24日（金）

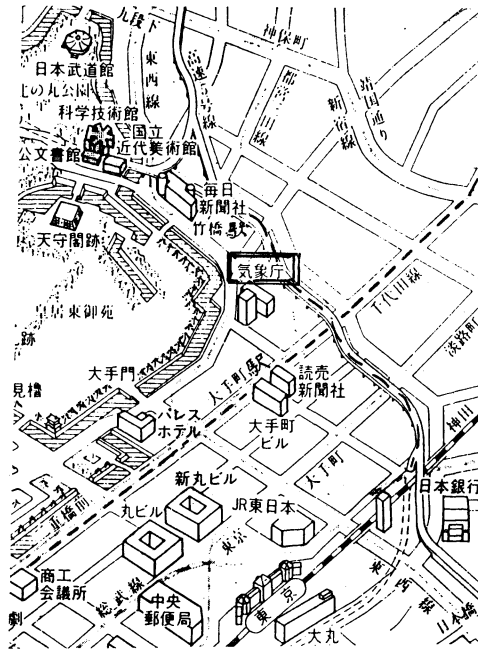
会場：気象庁（東京都千代田区大手町 1-3-4）

電話（03）3212-8341

目次

会場案内.....	235
大会行事予定表.....	236
総会次第.....	236
研究発表内容一覧表.....	237
シンポジウム内容.....	238
研究発表題目.....	239~249

会場案内図



大会行事予定

1. 会場：気象庁（電話 03-3212-8341）
 A会場：講堂（2階）
 B会場：第1会議室（5階）
 C会場：東京管区会議室（8階）
 ポスター・セッション：2階ロビー
2. 会期：5月22日（水）、23日（木）、24日（金）

行事			
大会（研究発表）	（A, B, C会場）	5月22日（水）	09:00~12:30 13:30~16:00
大会（ポスター・セッション概要紹介）	（A会場）		16:10~16:30
大会（ポスター・セッション）	（2階ロビー）		16:30~17:30
大会（研究発表）	（A, B, C会場）	5月23日（木）	09:00~12:00 13:00~14:00
総会・学会賞・藤原賞授与	（A会場）		14:00~15:15
日本気象学会賞・藤原賞記念講演	（A会場）		15:30~17:30
シンポジウム	（A会場）		18:00~20:00
懇親会	（如水会館）		
大会（研究発表）	（A, B, C会場）	5月24日（金）	09:00~12:30 13:30~17:30

総会次第

1. 開会の辞
 2. 議長選出
 3. 理事長挨拶
 4. 学会賞授与
 5. 藤原賞授与
 6. 平成2年度事業経過報告
 7. 平成2年度会計決算報告
 8. 平成2年度会計監査報告
 9. 平成3年度事業計画案・予算案の審議
 10. その他
 11. 閉会の辞
- なお、総会に引き続き学会賞受賞記念講演および藤原賞受賞記念講演を行う。

平成3年度春季大会

()は講演数(第1種-第2種と講演番号), —は座長

		A 会 場	B 会 場	C 会 場
5月22日 (水)	09:00~ 12:30	中小・総観規模現象Ⅰ (21-3, A101~A124) —坪木和久— —鈴木 修—	地表面・大気相互作用 (12-7, B101~B119) —岩坂直人— —三上正男— —鬼頭昭雄—	観測手法 (19-2, C101~C121) —黒崎明夫—
	13:30~ 16:00	中小・総観規模現象Ⅱ (12-5, A151~A167) —萬納寺信崇—	大気大循環 (17-1, B151~B168) —佐藤康雄— —杉 正人—	雲物理・積雲対流Ⅰ, 大気電気 (7-7, C151~C164) —梶川正弘—
	16:10~ 17:30	ポスター・セッション(概要紹介後講演) (P101~P108)		
5月23日 (木)	09:00~ 12:00	気候 (15-4, A201~A219) —江口 卓— —山田真吾— —梅本 亨—	中層大気 (7-2, B201~B209) —佐藤 薫— 気象教育 (1-2, B210~B212) —島貫 陸—	エアロゾル (9-0, C201~C209) —早坂忠裕— 放射 (6-3, C210~C218) —深堀正志—
	13:00~ 15:15	総会 学会賞・藤原賞記念講演		
	15:30~ 17:30	シンポジウム「炭素循環の謎を考える——化石燃料から出たCO ₂ はどこへ行ったのか?」 コンビナー: 松野太郎 話題提供者: 田中正之, 及川武久, 半田暢彦, 杉ノ原伸夫		
5月24日 (金)	09:00~ 12:30	雲物理・積雲対流Ⅱ (7-9, A301~A316) —村上正隆—	気象力学 (7-9, B301~B316) —高藪 出— —金久博忠—	接地境界層 (7-2, C301~C309) —文字信貴— エクマン境界層・小気候 (8-1, C310~C318) —萩野谷成徳—
	13:30~ 17:30	台風・熱帯気象 (15-8, A351~A373) —石島 英— —露木 義—	大気化学 (7-4, B351~B361) —竹内延夫— オゾン (10-2, B362~B373) —内野 修—	局地循環 (4-7, C351~C361) —里村雄彦— 大気汚染 (5-3, C362~C369) —山澤弘実—

発表件数 285件(第1種講演196, 第2種講演81, ポスター8)

大会参加費 一般会員2,000円, 学生会員1,000円, 非会員2,500円

講演発表者へのお知らせ

1. A, B, C会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演および質疑時間は, 第1種講演はそれぞれ5分と2分以内, 第2種講演は10分と5分以内です。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下をそろえて下さい。
4. ポスター・セッションの方法については「天気」12月号(p. 828)を参照して下さい。
またポスターに表題と発表名を明記して下さい。なお, 概要紹介は1件2分以内です。

シンポジウム「炭素循環の謎を考える——化石燃料
から出た CO₂ はどこへ行ったのか？」

1. 日時 大会第2日（5月23日）15：30～17：30
2. 会場 A会場（気象庁講堂）
3. コンビナー 松野太郎（東大・理）
4. 話題提供者
 - 田中 正之（東北大・理）：炭素循環の問題点
 - 及川 武久（筑波大・生物科学）：生物圏はソースかシンクか？
 - 半田 暢彦（名大・水圏研）：海洋中の生物・地球化学過程
 - 杉ノ原伸夫（東大・理）：海洋大循環——中層水の役割
5. 総合討論——CO₂ はどこへ行ったのか？——

なお、大会前日（5月21日）に行われる各種研究会については、2月号（pp. 133～134）をごらん下さい。

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用
する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用
しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

研究発表題目

(講演番号の*印は第2種講演を, 発表者名の*は講演者を表す).

大会第1日(5月22日) 9時00分~12時30分

A会場 中小・総観規模現象 I

座長 坪木和久(東大・海洋研)

- A101. *森 征洋(香川大・教育), 片山賀佳子: 四国における台風による降雨と地形との関係について
- A102. *足立樹泰・津田敏隆(京大・超高層), 増田悦久(通信総研), 加藤 進・深尾昌一郎(京大・超高層): MU レーダー/RASS による対流圏温度プロファイルの高時間分解能観測
- A103. 小谷玄哉・山中大学・*深尾昌一郎(京大・超高層), 佐藤 亨(京大・工), 山本 衛・津田敏隆・加藤 進(京大・超高層), 上田 博(北大・理), 渡辺 明(福島大・教育), 住 明正(東大・理): 閉塞した梅雨期中間規模低気圧のMU レーダー観測
- *A104. *城岡竜一・上田 博・清水収司(北大・理), 深尾昌一郎・津田敏隆・加藤 進(京大・超高層), 住 明正(東大・理), 渡辺 明(福島大・教育): MU レーダーとマイクロ波気象レーダーの比較観測——梅雨前線の層状雲を対象として——
- *A105. *清水収司・上田 博・城岡竜一(北大・理), 渡辺 明(福島大・教育), 住 明正(東大・理), 深尾昌一郎(京大・超高層): 信楽における梅雨前線の構造の観測——1990年7月2日~3日の事例——
- A106. *渡辺 明(福島大・教育), 上田 博(北大・理), 住 明正(東大・理): 梅雨前線帯の meso 構造
- A107. *渡辺 明(福島大・教育), 上田 博(北大・理), 住 明正(東大・理): 熱低に伴う cloud band の meso 構造
- A108. *榎原 均・石原正仁・田畑 明・赤枝健治・柳沢善次・岡村博文・島津好男・青柳二郎・松浦和夫・鈴木 修(気研): 豪雨をもたらす対流雲群の構造について
- A109. 島津好男(気研・台風): 対流雲で構成された

レインバンドの発生に関する数値実験

- A110. *荒生公雄(長崎大・教育), 岩下俊明(長崎県時津中): 1989年7月21日の長崎市周辺における雷雨活動
- 座長 鈴木 修(気研・衛星観測)
- A111. *葦澤 浩・大野久雄・鈴木 修(気研・衛星観測): 213 m 観測鉄塔で測定された鉛直ウィンドシヤーの強さについて
- A112. *葦澤 浩・大野久雄・鈴木 修(気研・衛星観測): ガストフロントの微細構造
- A113. *大野久雄・鈴木 修(気研・衛星観測): 関東平野霞ヶ浦北方で発生したダウンバースト——1990年7月19日午後——
- A114. 岩下晴彦(日本航空): 羽田で発生した地上強風——1987年7月25日
- A115. 岩下晴彦(日本航空): 日本のウィンドシヤー・時空法・茂原竜巻
- A116. *新野 宏(気研・物理)・葦澤 浩・大野久雄・鈴木 修(気研・衛星観測): 1990年9月19日栃木県壬生町の竜巻
- *A117. *鈴木 修・大野久雄(気研・衛星観測): 1990年9月19日壬生町竜巻周辺の気流構造について——ドップラーレーダーによる観測——
- A118. 尾崎康一(㈱ウェザーニューズ): 落雷位置標定システム(LPATS)で観測した落雷と竜巻について
- A119. 入田 央・檜尾守昭・*高瀬邦夫・日野 修(気象庁・予報): 1990年12月11日千葉県内で発生した竜巻
- A120. *新野 宏(気研), 小倉義光(東大・海洋研), 葦澤 浩・高藪 出(気研): 1990年12月11日千葉県に発生した竜巻等突風現象のメソスケール解析
- A121. *鈴木 修・大野久雄(気研・衛星観測): 1990年12月11日茂原市竜巻周辺の気流構造について——ドップラーレーダーによる観測——
- A122. 林 泰一・光田 寧(京大・防災研): 1990年

1991年4月

12月11日に房総半島で発生した竜巻について

- A123. 新野 宏・*藤谷徳之助(気研), 山口修由・室田達郎(建築研), 木下宣幸・高藪 出・大野久雄・葦澤 浩・鈴木 修(気研): 1990年12月11日千葉県茂原市の竜巻の特性(速報)
- A124 *瀬上哲秀(気象庁・数値予報), 小倉義光(気象協会): 上層の渦位の正偏差と地上低気圧の発達——1990年12月11日のケース——

B会場 地表面・大気相互作用

座長 岩坂直人(東京商船大)

- B101. 木津昭一・川村 宏(東北大・理): GMS-VISSR データを用いた広域海面における短波放射入射量の評価に関する研究——第2報——
- B102. *金 栄変・木村竜治(東大・海洋研): GMS資料による海面上の日射量の推定
- B103. *萩野谷成徳・木下宣幸・藤谷徳之助(気研): 広域海面熱収支の自動観測(1)
- B104. 佐々木保徳(海洋センター), 鈴木 彰(国際気象海洋研), 内藤玄一(防大・地球科学), 中村秀臣(防災科研): 海上上の熱収支観測(その1)
- *B105. *大滝英治(岡山大・教養), 藤原福一(岡山市役所), 山下栄次(岡山理大): 海水中の二酸化炭素分圧
- 座長 三上正男(気研・応用)
- B106. 山本 哲(気象庁・観測): 千葉県柏市における蒸発散位・蒸発量観測(1959年~1970年)
- B107. *木下宣幸・萩野谷成徳(気象・物理): 自動気象観測装置を用いた地表面熱収支の試験観測
- B108. *原園芳信(農環技研), 村上智美(富士総研), 山田千絵(筑波大・自然): 作物群落の生育に伴う運動量輸送量の変化
- *B109. 近藤純正・*中國 信(東北大・理): 森林内貯熱量の推定
- *B110. 近藤純正・*渡辺 力(東北大・理): 日本各地の森林蒸発散量
- B111. 近藤純正・*三枝信子(東北大・理): 裸地面蒸発の熱収支・水収支同時観測
- B112. *坂井紀之(気象協会), 開発一郎・福岡義隆(広島大・総合科学): 砂質土壌草地面における降雨後の大気—地中間の熱・水分移動観測
- *B113. 小林哲夫(九大・農): 乾燥裸地面からの蒸発速度推定法, DSL 法について

座長 鬼頭昭雄(気研・気候)

- *B114. 神田 学・稲垣 聡・日野幹雄(東工大): 大気—土壌・水面系の相互作用に着目した対流性雲・局地風系の3次元数値計算——ヒートアイランド・クールアイランドの影響
- B115. *近藤裕昭・林 正康・蒲生 稔(公害資源研)和氣亜紀夫(清水建設(株)・技術研): 砂漠環境予測モデルの開発(その1)
- B116. 松山 洋(東大・地理): アマゾンにおける水収支から見た降水メカニズム
- B117. *沖 大幹・虫明功臣(東大・生産研), 増田耕一(東大・理): 流域水収支に対する客観解析データの応用(1)
- *B118. 山中康裕(東大・理): 大循環モデルによる大気・海洋系の研究(1)——地表面熱収支・南北熱輸送について——
- *B119. *岩朝美晴(中京短大・経営), 阿部 豊(名大・水圏研): 放射対流平衡の「直接」計算(3)

C会場 観測手法

座長 黒崎明夫(高松地台)

- C101. *真木雅之(防災科研・つくば), Richard J. Doviak (NOAA/ERL/NSSL): 1台のドップラーレーダーによる wind shift zone の解析
- *C102. *高橋暢宏・上田 博・菊地勝弘(北大・理): 1台のドップラーレーダーによる乱れを含む水平風の分布の推定法について
- *C103. 前川泰之(大阪電通大), 園井康夫(関西電力), 吉野文雄(土木研), 深尾昌一郎(京大・超高層): 二重偏波レーダーによる冬季雷雲降水粒子分布の観測と発雷との関係
- C104. *橋口浩之・山本 衛・深尾昌一郎・津田敏隆・山中大志・中村卓司(京大・超高層), 佐藤 亨(京大・工), 加藤 進(京大・超高層), 牧平経市・浜津亨助(三菱電機): 小型可搬式大気境界層観測レーダーの開発
- C105. *黒崎明夫・上田真也・松浦和夫・永井智広・葦澤 浩・鈴木 修・岡村博文・石原正仁・佐藤純次(気研), 外崎 均・宮川幸治(高層気象台), 鯉沼正一(気象衛星センター): 各種の気象観測方法による同時比較観測
- C106. 岡村博文(気研・台風): レーウィンゾンデの連結飛揚観測について
- C107. 内海通弘・前田三男(九大・工), 石川 肇・

- 村岡克紀(九大・総理工), 内野 修(気研・衛星観測): 波長可変ライダーによる対流圏水蒸気の測定法
- C108. *阿保 真・長澤親生(都立大・工): 偏光解消度を利用したスギ花粉測定用ライダーの開発
- C109. *水野芳成・内野 修・藤本敏文(気研・衛星観測): エアゾール観測のための航空機搭載ライダーの開発
- C110. 阿保 真(都立大), 下田晋也・甲斐憲次・内田高明(筑波大), 長沢親生(都立大), 河村 武(筑波大), 光田 寧(京大): 可搬型ライダーを用いた, ゴビ砂漠における黄砂の空間分布に関する研究(1) 可搬型ライダーの製作
- C111. 呉 尚謙(筑波大), *竹内延夫(国立環境研), 河村 武(筑波大): モンテカルロ法によるライダー多重散乱のシミュレーション
- C112. *松本雅雄(千葉大), 呉 尚謙(筑波大), 竹内延夫(国立環境研): ライダー信号の反転解法における多重散乱の影響
- C113. 内藤成規・内田裕之・*今泉孝男・田口晴夫(気象衛星センター): 雲移動ベクトルとレーウィンの比較(1)
- C114. *内藤成規・内田裕之・今泉孝男・田口晴夫(気象衛星センター): 雲移動ベクトルとレーウィンの比較(2)——雲移動ベクトルの負バイアスの原因推定——
- C115. *増田一彦・高島 勉(気研・衛星観測): 衛星からの巻雲の偏光観測——近赤外域での neutral point の数値シミュレーション——
- C116. 竹内義明(気象衛星センター): NOAA データを用いた鉛直分布算出アルゴリズムの開発——物理法と数値予報値の利用——
- C117. 青木忠生・深堀正志・青木輝夫(気研・物理): 地上設置型水蒸気鉛直分布リモートセンサの開発
- C118. *山内 恭(極地研), 押山知之(電通大), 和田 誠(極地研): MOS-1 マイクロ波放射計(MSR) による極域の水蒸気量・雲水量観測に関して
- C119. *高山陽三(気研・衛星観測), 竹内章司・富田強(RESTEC), 前田惟裕(NASDA), 川村宏(東北大), 斎藤謙一(気象協会), 横山隆三(岩手大): 衛星赤外・マイクロ波放射計併用による海面温度推定精度向上
- C120. *内藤玄一・田邊光教(防大・地球科学), 佐々木保徳・浅沼市男(海洋センター), 中村秀臣(防災科研): 航空機から撮影された海氷写真の画像処理による解析(2)
- C121. *田島俊彦・川平浩二(富山高専): 回転円筒水槽流体の流れと温度分布の液晶による立体的観測

大会第1日(5月22日) 13時30分~16時00分

A会場 中小・総観規模現象 II

座長 萬納寺信崇(気象庁・数値予報)

- A151. 大窪 浩・萬納寺信崇(気象庁・数値予報): 気象庁日本域モデル(JSM)及び10KMメッシュモデルによる北海道西岸小低気圧のシミュレーション(第2報)
- *A152. *藤吉康志(名大・水圏研), 児玉裕二(北大・低温研), 坪木和久(東大・海洋研), 西村浩一・遠藤辰雄(北大・低温研), 小野延雄(極地研): 北海道西岸帯状収束雲発現時の冷気流の実態——礼文島と宗谷岬でのゾンデ2点同時観測——
- A153. 浅井富雄・*坪木和久(東大・海洋研): 冬期季節風の寒気流中に発生するメソスケール低気圧——北海道西岸小低気圧の数値実験とエネルギー変換過程——
- A154. 二宮洗三(札幌管区): Polar Low の多重スケール構造
- A155. 児玉安正・中山高德・尾崎尚則(弘前大・理): 冬季季節風時の100km~200kmスケールの降水変動について
- *A156. *井上君夫・阿部博史(東北農試・気象特性研): 三陸沿岸地帯に侵入するやませ(霧)の気象特性
- A157. 川村 宏(東北大・大気海洋センター): 海上のヤマセ雲と海洋構造との関連について
- *A158. 中村誠臣・瀬上哲秀・岩崎俊樹(気象庁・数値予報): JSM によるやませの数値実験
- *A159. *大野久雄・鈴木 修(気研・衛星観測), 瀬上哲秀(気象庁・数値予報): 関東平野で観測される北東下層ジェットの統計的性質

- *A160. *鈴木和史 (気象庁・予報), 安東義彦 (気象衛星センター): 関東地方に悪天をもたらす下層雲の分類
- A161. 野口晋孝 (気研・予報): 沿岸前線と北東気流雲の数値予報による解析——エキスパートシステムの天気予報への利用——
- A162. 永田 雅 (気研・予報): 発達中の南岸低気圧に伴なり関東平野の沿岸前線と大雪——超細格子モデルによる予報実験—— (序報)
- A163. 青梨和正 (気研・予報): 局地モデルにおける降水の位相誤差の減少への試み
- A164. *高藪 出 (気研・応用), 山中大学・深尾昌一郎 (京大・超高層): 二次元フロントゲネシスモデルにみられるジェット上下の鉛直流逆転
- A165. 里村雄彦 (気研・応用): 曲線座標を用いた数値モデル (3) 雲物理モデル
- A166. *木田秀次・小出 孝・佐々木秀孝・千葉 長 (気研): 局地気候モデルの開発 (1)——モデリングの方法について——
- A167. *佐々木秀孝・小出 孝・木田秀次・千葉 長 (気研): 局地気候モデルの開発 (2)——予備実験の結果——
- B会場 大気大循環**
座長 佐藤康雄 (気研・気候)
- B151. 山田真吾・前田修平・工藤達也 (気象庁・長期予報), 岩崎俊樹 (気象庁・数値予報), 露木義 (気研・予報): 気象庁全球モデルによる1か月予報実験
- B152. 工藤達也・前田修平・山田真吾 (気象庁・長期予報): ensemble initialization による1か月予報実験
- B153. 杉 正人 (気研・気候): 87, 88年夏のモンスーンに関する数値実験 (2)
- B154. 鬼頭昭雄 (気研・気候): 実測海面水温を与えた大気モデルの地上気温変化
- B155. 時岡達志 (気研・気候), 齋藤正彦 (東京電力・技術研): 二酸化炭素増加に伴う海・陸スケールでの気候変化の特徴
- B156. 野田 彰 (気研・気候), *高田久美子 (東京電力・技術研): Arakawa-Schubert のパラメタリゼーションを用いた1次元放射対流平衡大気
- B157. *小寺邦彦・千葉 長・柴田清孝 (気研・気候) 変調: GCM によるインパクト実験
- B158. 沼口 敦 (東大・理): 熱帯降水帯の位置と水収支
- B159. 二階堂義信 (気研・気候): 夏半球の亜熱帯高気圧研究 (その3) ——亜熱帯高気圧における大規模山岳の効果——
座長 杉 正人 (気研・気候)
- B160. 藤井盛澄 (大阪電通大): 太平洋, 大西洋域における Jet 流の変動とその関連性
- B161. 児玉総司・*安成哲三 (筑波大): 南極のカタバ風に現れた30~40日周期変動と南半球の大気大循環
- B162. 児玉安正 (弘前大・理): 亜熱帯域の顕著な降水帯 (梅雨前線・SPCZ・SACZ) にみられる共通性
- *B163. *佐藤康雄・千葉 長・柴田清孝・木田秀次 (気研): 永続する1月の条件での AGCM 長期間積分に現れるテレコネクションパターン
- B164. 鬼頭昭雄 (気研・気候): 北太平洋・北米域のテレコネクションと海面水温
- B165. *木本昌秀 (UCLA/気象庁), M. Ghil (UCLA), K.-C. Mo (NOAA/CAC): Spatial Structure of the Extratropical 40-day Oscillation
- B166. *岩山隆寛・栢原孝浩・岡本寿夫・瓜生道也 (九大・理): FGGE データセットから得られた 500 mb geopotential height の階層構造
- B167. *菊地直吉・内藤勲夫 (国立天文台): 気象庁全球客観解析データに基づく大気質量変動の見積もり 1. 季節変化
- B168. *内藤勲夫・菊地直吉 (国立天文台): 気象庁全球客観解析データに基づく大気質量変動の見積もり 2. 季節内変動
- C会場 雲物理・積雲対流 I, 大気電気**
座長 梶川正弘 (秋田大・教育)
- *C151. *高橋忠司・関 陽子・丸田千勢 (埼玉大・教育): 砲弾集合の成長について
- *C152. *原田素子・菊地勝弘 (北大・理): 多結晶の初期氷晶の形態と成長機構
- C153. *遊馬芳雄・菊地勝弘 (北大・理), 石坂 隆 (名大・水圏研): 氷晶スペクトロメータによる飛行機観測 (序報)
- C154. *松尾敬世・村上正隆・水野 量・山田芳則 (気研・物理): HYVIS による雪雲内部の微小氷晶の観測

- C155. *安井元昭・高橋 勲 (九大・理): 高層雲内の氷晶の航空機観測
- *C156. *金村直俊・播磨屋敏生 (北大・理), 岡崎賢治 (北大・環境): 降雪粒子の粒径分布とその成長過程について
- *C157. 赤川宏幸 (筑波大・院), 岡田菊夫 (気研・応用): 層雲の雲底付近における雲粒粒径と雲粒残渣について
- C158. 石坂 隆 (名大・水圏研), 鶴田治雄 (農環技研): 雲粒粒度分布のモデル化の予備実験
- *C159. 水野 量・松尾敬世・村上正隆・山田芳則 (気研・物理): 北西季節風時対流性降雪雲のマイクロ波放射特性と降雪粒子の観測
- C160. 村上正隆・松尾敬世・山田芳則・水野 量 (気研・物理): 発達期の対流性降雪雲の内部構造観測
- C161. 梶川正弘 (秋田大・教育): 雪結晶の落下運動について (4)
- *C162. 下舞幸作・*高橋 勲 (九大), 園井康夫 (関西電力), 前川泰之 (大阪通大・工), 深尾昌一郎 (京大・超高層): 北陸雪雲の電荷3極構造と降雪粒子の形状と電荷
- *C163. *道本光一郎・緒方秀明・遠峰菊郎 (防大・地球科学), 郷津寿夫・金尾誠一・佐渡一典 (北陸電力(株)・技術研): 冬季雷雲下のレーダエコーと車載電界計による電界の同時観測
- C164. 久保 隆・*河崎善一郎・松浦虔士 (大阪大), 山田 勝 (関西電力): 落雷頻度でみた1990年7月24日の雷活動

大会第1日 (5月22日) 16時10分～17時30分

ポスター・セッション概要紹介

座長 高藪 縁 (国立環境研)

- P101. 吉崎正憲 (気研・予報): 赤道ベータ面の“positive-only” wave-CISK モデルで見られる発達する東進モードと発達しない西進モードの形成のメカニズム——数値実験——
- P102. 千葉 長・山崎孝治 (気研・気候): パッシブトレーサーの長距離輸送のシミュレーション
- P103. 田中 実 (気研・台風): GMS 上層雲量によるアジア・西太平洋上における夏のモンスーン季の季節変化
- P104. *高橋俊二・千葉 長 (気研): ‘やませ’ と太平洋—日本海側の温度差
- P105. 長谷川直之 (気象庁・数値予報), 小坂順一 (東京航空地台): 10キロメッシュモデルによる関東のシアアの事例解析
- P106. 藤部文昭 (気研・予報): 関東平野に現れるメソ温暖・寒冷前線の気候学
- P107. 石原正仁・榊原 均・田畑 明・赤枝健治・島津好男・岡村博文 (気研・台風): 台風9015号のドップラーレーダー観測
- P108. *菊地時夫 (高知大・理), G.T. Meaden (TORRO), J. T. Snow (Purdue Univ.): ナノバーストで解けるサークルの謎

大会第2日 (5月23日) 9時00分～12時00分

A会場 気候

座長 江口 卓 (農環技研)

- A201. *村田昭彦 (東北大), 山内 恭 (極地研), 田中正之 (東北大): 気象衛星 NOAA/AVHRR データによる南極域の雲量の分布特性
- *A202. *大沢和裕 (気象衛星センター), 大野久雄 (気研・衛星観測): 全球降水気候計画アルゴリズム国際比較実験 (3) 毎時 GMS 赤外データから前線性の降水量を見積もるアルゴリズムの概要と性能
- A203. 山本 哲 (気象庁・観測): レーダー・アメダス合成値による月降水量推定の検討
- A204. 森島 濟 (桐生短大・生活科学): 熱帯域における月平均 OLR と月降水量の対応関係について
- A205. *三浦芳敬・上野達雄 (気象庁・長期予報): 類似・反類似法による旬平均気温の予想
- A206. 小泉 耕 (気象庁・長期予報): 海面水温の類似/反類似法による月平均気温予想
- 座長 山田真吾 (気象庁・長期予報)
- A207. *小元敬男・鱧谷 憲 (大阪府大・農): 1990年夏の暑さについて

- *A208. *谷本陽一(東北大・理), 岩坂直人(東京商船大), 花輪雄雄・鳥羽良明(東北大・理): 北太平洋海面水温変動の時間的階層構造
- A209. 轡田邦夫(東大・海洋研・大槌): 太平洋上の海上風場にみられる Decadal スケールの変動
- A210. 角野有香(京大・理・気候): 北太平洋と北大西洋の海面水温の約10年のラグの相関について
- *A211. 篠田雅人(都立大・地理): 熱帯アフリカ半乾燥地域の降水量変動と東西循環
- A212. 小柴 厚(気象庁・産業気象): 降水の長期変動
- A213. 須田芳彦(都立大・地理): 温暖年と寒冷年における確率降水量のちがい
- 座長 梅本 亨(明大)
- A214. 大和田道雄(愛知教育大・総理), 平岩浩二(岡崎市立六ッ美北部小): 最近10年間における本邦付近の切離低気圧の発現回数とその移動経路
- *A215. 水越允治(三重大・人文): 近世小氷期の気象・気候条件について——近畿・東海地方の場合——
- A216. *三上岳彦・河村公隆・鈴木啓助(都立大・理), 藤井理行・渡辺興亜(極地研): グリーンランド氷床コアの化学分析からみた過去450年間の大気環境変動——その1: 研究の概要——
- A217. *鈴木啓助・五十嵐誠・三上岳彦・河村公隆(都立大・理), 藤井理行・渡辺興亜(極地研), 神山孝吉(京大・理): グリーンランド氷床コアの化学分析からみた過去450年間の大気環境変動——その2: MSA と主要成分の濃度変化傾向——
- A218. *河村公隆・鈴木郁子・横山和久・三上岳彦・鈴木啓助(都立大・理), 藤井理行・渡辺興亜(極地研): グリーンランド氷床コアの化学分析からみた過去450年間の大気環境変動——その3: 有機成分の深度分布——
- A219. *福山 薫(三重大・教育), 柏谷健二(神戸大), 山本淳之(大阪電通大): 琵琶湖底堆積物の粗粒含有量の永年変化と更新世気候変動
- B会場 中層大気**
- 座長 佐藤 薫(京大・理)
- B201. 牛丸真司(名大・水圏研): 南半球成層圏の波数1の停滞波と波数2の東進波の相互作用に関する数値シミュレーション

- B202. 丸山健人(気研・予報): 成層圏赤道波活動の年周期変動(ボナペ: 1983-1990)
- B203. *E.M.P. Ekanayake・Y. Hashiguchi・S. Miyahara(九大・理): The generation and propagation of equatorial wave disturbances from the lower troposphere
- *B204. *吉田容子・宮原三郎(九大・理): 中層大気大循環モデルでシミュレートされた大気潮汐振動
- B205. 谷貝 勇(気研・気候): 全球格子点データから見える大気潮汐——解析データの品質評価に関して——
- *B206. *津田敏隆・田中 卓(京大・超高層): ケルビン波が赤道域インドネシアの対流圏界面の構造に与える影響のラジオゾンデ観測
- B207. 近藤幸治(高層気象台): 日本の高層観測データから観た気温の経年変化について
- B208. *内野 修・藤本敏文・水野芳成(気研・衛星観測), 井手迫義和・高島英之・甲斐憲次(筑波大): ライダーによる成層圏の気温観測
- B209. *遠藤伸彦(筑波大・地球科学), 内野 修(気研・衛星観測), 高島英之・甲斐憲次(筑波大・地球科学): 気象研究所レーラー・ライダーで観測された気温鉛直分布に見られる微細構造

気象教育

座長 島貫 陸(東京学芸大)

- *B210. *浦野 弘・島貫 陸(東京学芸大), 名越利幸(千代田区立九段中), 河合宏一(大田区立羽田中): 中学校における気象教育の問題点と新しいカリキュラムの案
- B211. *斉藤達也・藻垣拓郎(茨城県立日立工高): 気象衛星「ひまわり」のLR-FAX画像の学校教育における利用
- *B212. 大鹿清司(大宮市立西中): 市街地に隣接する森が与える気温分布への影響

C会場 エアロゾル

座長 早坂忠裕(東北大・理)

- C201. *古賀聖治・田中 浩(名大・水圏研): 熱帯太平洋におけるDMSの観測
- C202. 石坂 隆・*銭 公望・皆巳幸也・倉橋佳伸(名大・水圏研), 大和政彦(群馬大), 鶴田治雄(農環技研): 硝酸アンモニウム粒子による酸性霧粒の形成の可能性について
- C203. 甲斐憲次・下田晋也・内田高明(筑波大), 阿保

真・長沢親生(都立大・工), 河村 武(筑波大), 光田 寧(京大・防災研): 可搬型ライダーを用いた, ゴビ砂漠における黄砂の空間分布に関する研究(2) 観測計画

- C204. *池上三和子・岡田菊夫・財前祐二(気研): 西太平洋・中部対流圏における黄砂粒子の性状
- C205. *池上三和子・岡田菊夫・財前祐二・牧野行雄(気研): 高度12kmにおけるエアロゾルの分布と変動過程
- C206. *岡田菊夫・池上三和子・財前祐二・山崎孝治(気研): オーストラリア対流圏上部で採集された鉱物粒子
- C207. *岡田菊夫・池上三和子・財前祐二・牧野行雄(気研): 下部成層圏に存在する硝酸イオンを含む粒子の元素分析
- C208. *熊倉俊郎(CRC機), *三浦和彦・関川俊男(東京理大・理): 地球規模でのバックグラウンドエアロゾルの水平分布と大陸性エアロゾルの影響(その3) 全地球的水平分布図の作成
- C209. *早坂忠裕・中島映至(東北大・理), 竹内義明(気象衛星センター): GMS データを用いたエアロゾル濃度の定量的評価

放射

座長 深堀正志(気研・物理)

- *C210. *植草 篤・田中正之・中島映至(東北大・理): エアロゾルの光吸収特性とすすの関係について

- C211. *深堀正志・青木忠生・青木輝夫(気研・物理), 八尾 孝(札幌管区): 大気のエミッション観測による10 μm 水蒸気連続吸収帯吸収係数の推定(Ⅲ)
- C212. *中島映至(東北大・理), 鈴木 睦・笹野泰弘(国立環境研): ILAS 放射計による気温と圧力鉛直分布の推定
- C213. 徳野正己(気象衛星センター): 人工衛星データによる寒気の吹き出しによる筋状雲の光学的性質の解析(1)
- *C214. *浅野正二・塩原匡貴(気研・気候): 多波長フレックス反射率測定による雲物理パラメタの推定 II. 雲水量と水蒸気の推定
- *C215. *早坂忠裕・中島映至・田中正之(東北大・理): 放射観測に基づく雲の幾何学的厚さの評価(WCRP「雲と放射」航空機観測より)
- C216. *真野裕三・塩原匡貴・内山明博・浅野正二(気研・気候): 小規模積雲群の配置状況と短波放射特性について
- C217. *内山明博・塩原匡貴・浅野正二・深堀正志(気研): 地上から観測した巻層雲の赤外10 μm 域の放射特性(有効射出率)
- C218. *塩原匡貴・浅野正二・内山明博(気研・気候): サンフォトメータ観測による巻層雲の光学的厚さ

大会第3日(5月24日) 9時00分~12時30分

A会場 雲物理・積雲対流 II

座長 村上正隆(気研・物理)

- *A301. *中島映至(東北大・理), Yoram J. Kaufman(NASA/GSFC): アマゾン域の熱帯雨林の燃焼に伴う雲の変質
- A302. 和田 誠(極地研): 衛星搭載マイクロ波放射計による海上上の擾乱の識別
- A303. 小西啓之(大阪教育大), 遠藤辰雄・若浜五郎(北大・低温研), 和田 誠・川口貞男(極地研): 南極・昭和基地における低気圧に伴う雲の観測
- A304. *中井専人・真木雅之(防災科研・つくば), 中村秀臣(防災科研・平塚): 1回の寒気の吹き出しに伴う降雪エコーの特徴の時間変化
- *A305. *佐藤晋介(北大・低温研), 藤吉康志(名大・水圏研), 若浜五郎(北大・低温研), 城岡竜一・

上田 博(北大・理): 2台のドップラーレーダーによる北海道西岸带状収束雲の観測

- A306. *菊地勝弘・上田 博・城岡竜一・高橋暢宏・清水 収司・竹本 明生・アンドレイ・ベロツェロコフスキー(北大・理), 尾崎尚則(北大・環境), 李 東仁(釜山水産大): 礼文島における降雪雲の発生・発達過程の観測——その1: 観測の概要——
- *A307. *竹本明生・上田 博(北大・理), 尾崎尚則(北大・環境), 城岡竜一・高橋暢宏・菊地勝弘(北大・理): 礼文島における降雪雲の発生・発達過程の観測——その2: 1991年1月22・23日に観測された収束带状雲について——
- *A308. *上田 博・城岡竜一・竹本明生(北大・理), 尾崎尚則(北大・環境), 高橋暢宏・菊地勝弘

(北大・理)：礼文島における降雪雲の発生・発達過程の観測——その 3：二重偏波レーダーでみた雪雲の鉛直構造——

- *A 309. 尾崎尚則 (北大・環境), 上田 博・城岡竜一・菊地勝弘 (北大・理)：NOAA 衛星とドップラーレーダーによる筋状雲の構造の解析——冬期季節風時, 北海道石狩湾に於ける事例解析——
- *A 310. *山田芳則・水野 量・松尾敬世・村上正隆・石原正仁・榊原 均 (気研), 藤吉康志 (名大・水圏研)：寒冷前線に伴う降水雲の内部構造の観測——1990年2月7日の事例解析——
- *A 311. 真木雅之(防災科研・つくば), Richard J. Doviak (NOAA/ERL/NSSL)：ドライライン付近で発生した積雲対流——プレストーム場の解析——
- A 312. *松尾敬世・水野 量 (気研・物理)：SEEDING による降雪粒子の変化
- *A 313. *猪川元興・水野 量・斉藤和雄・気象研降雪機構研究グループ (気研)：対流性降雪雲の数値実験(その3)まとめ 氷晶生成項に対する感度実験及び降雪形成機構
- A 314. 村上正隆 (気研・物理), T. Clark・W. Halj (NCAR/MMM)：ネステイングモデルによる日本海上降雪雲の数値実験——寒気吹出しの強さによる雪雲形成過程の違いについて——
- *A 315. 篠田太郎・上田 博 (北大・理), 吉崎正憲 (気研・予報)：石狩平野における積乱雲群の数値実験——1988年9月23日の事例について——
- A 316. 神田 学・稲垣 聡・日野幹雄 (東工大)：積雲対流の非定常過程・マージング現象に関する3次元数値実験——相変化をともなる熱対流の発達挙動——

B会場 気象力学

座長 高藪 出 (気研・応用)

- *B 301. *小林茂樹 (名大・理), 阿部 豊 (名大・水圏研), 深尾良夫 (名大・理)：不混和二相の重力分離に伴う流体運動(2) 非定常線形数値解析
- B 302. 斉藤和雄 (気研・予報)：山と谷のある地形を越える流れの非線形領域の振舞 (理論的考察)
- B 303. *山中大学 (京大・超高層), 高藪 出 (気研・応用), 深尾昌一郎 (京大・超高層)：等温位面振動としての圏界面重力波
- *B 304. 高藪 出 (気研・応用)：Eady モデルにおける連続モードの役割について

- *B 305. 吉崎正憲 (気研・予報)：赤道ベータ面において東西方向に動く局在化した熱源に対する線型定常応答問題
- *B 306. 和方吉信 (東海大・海洋)：大気海洋結合不安定性に及ぼす赤道湧昇流域の南北幅の影響について
- *B 307. *伊賀啓太・木村竜治 (東大・海洋研)：泡 (サーマル) によって駆動される対流運動 (第2報)
- B 308. *菅田誠治・余田成男 (京大・理)：回転水槽実験での定常軸対称循環——熱と角運動量の収支解析——
- B 309. 金久博忠 (気研・予報)：楕円形 モデルの渦位と流線関数の関係

座長 金久博忠 (気研・予報)

- *B 310. *野村真佐子・余田成男 (京大・理)：順圧流の「局所的リアプノフ安定性解析」
- *B 311. *直江寛明・松田佳久 (気大)：水平シアがある場合の擾乱の時間発展——球面上のパロトロピックモデル——
- B 312. *小林澄人 (京大・理), 酒井 敏 (京大・教養)：非帯状水路中の順圧シア不安定モード
- B 313. 小出 孝・木田秀次・千葉 長 (気研)：地形に強制されたプラネタリー波の碎波 (2)
- *B 314. *野沢 徹 (京大・理), 酒井 敏 (京大・教養), 余田成男 (京大・理)：回転水槽実験で得られた乱流への遷移過程
- B 315. *余田成男 (京大・理), 山田道夫 (京大・防災研)：回転球面上の減衰性2次元乱流
- *B 316. *石岡圭一・余田成男 (京大・理)：回転球面上での帯状流の順圧不安定について

C会場 接地境界層

座長 文字信貴 (大阪府大・農)

- C 301. 堀 晃浩・片岡 毅 (関西総合環境センター)：地形による乱流構造の変化, 2次元模型による風洞実験
- C 302. 塚本 修 (岡山大・教養)：日射量の変動に伴う接地境界層の応答 (2)
- *C 303. 米谷俊彦・柏木良明 (岡山大・資生研)：植物群落上の乱流特性について (29)
- *C 304. *萩野谷成徳 (気研), 小幡紀一 (啓風丸), 木下宣幸・藤谷徳之助 (気研), 江口一平 (気象庁・海上気象)：啓風丸で観測された水温の日変化についての熱収支的考察

- C 305. *早川誠而・鈴木義則(山口大・農): 傾斜地の局地気象現象——赤外熱画像が捉えたロール状対流
- C 306. *文字信貴・鱧谷 憲・井上 誠・鬼塚史子・小元敬男(大阪府大・農): 傾斜地森林内の風速鉛直分布の特徴
- C 307. *三上正男・藤谷徳之助・高蔽 出・毛利英明(気研・応用): 森林上のアルベード特性について
- C 308. 小林隆久(気研・応用): 植生域の放射モデル
- C 309. *千葉 修・明坂和幸(高知大・理), 近藤 正(気象協会・関西): ドップラーソーダによる海風侵入時刻の観測(海風の構造の研究 [I])

エクマン境界層・小気候

座長 萩野谷成徳(気研・物理)

- C 310. 石島 英(琉大・短): 台風境界層内の風速分布構造について
- C 311. 蒲生 稔(公害資源研): 混合層上部に出現する積雲(その7)

- *C 312. 水野建樹・近藤裕昭(公害資源研): 東京湾上を横切る局地不連続線の出現条件について
- C 313. *古屋主税・菅野洋光・岡 秀一(都立大・地理): 甲府市において夜間に形成される ヒートアイランドの季節変化
- C 314. *三上岳彦・菅野洋光・近藤昭彦(都立大・地理): 赤城山南西斜面における夜間の温暖帯の観測
- C 315. *菅野洋光・近藤昭彦・三上岳彦(都立大・地理): ランドサット TM 夜間画像と DTM の重ね合わせによる関東平野周辺部の温暖帯の解析
- C 316. 牛山素行(信州大・農): 異常気象・災害記録に見るわが国の雨水現象——雨水現象による森林災害の研究 第二報——
- C 317. 真木太一(熱帯農研), 潘 伯榮(中国科学院・新疆生物土壤沙漠研): 中国トルファンにおける夏季の気候と蒸発散特性
- C 318. 蒲生 稔(公害資源研), P. Goyal・Manju Mohan・U.C. Mohanty(インド工科大・ニューデリー): New Delhi の混合層

大会第3日(5月24日) 13時30分～17時30分

A会場 台風・熱帯気象

座長 石島 英(琉大・短)

- A 351. 白木正規・黒良龍太(気象庁・予報): 台風襲来の確率表現について
- A 352. *藤井 健(京産大・教養), 光田 寧・劉 迎(京大・防災研): 台風9019号の上陸後の気圧場の解析
- A 353. *岡村博文・山崎信雄・高橋清利(気研・台風): 転向点付近の台風微細構造
- A 354. *田畑 明・石原正仁・榊原 均・岡村博文・赤枝健治・島津好男(気研・台風): ドップラーレーダーで観測された台風9020号の降雨帯の構造
- A 355. 釜堀弘隆(気研・台風): 台風の数値場構造と移動について
- A 356. 阿部成雄(防大・地球科学): β -平面上の定常順圧渦
- *A 357. 岩崎俊樹・隈 健一・山田慎一・里田弘志(気象庁・数値予報): 全球モデルによる台風予報 I 積雲対流スキームのデータ同化システムへのインパクト
- *A 358. 吉本真由美・*木村竜治(東大・海洋研): 台風

の地上気圧が低くなるメカニズムの再検討(2報・完結)

- *A 359. 清水喜允(前橋地台): 傾圧偏東風の不安定による台風の発生
- A 360. 邊田有理江(京大・防災研): 熱帯低気圧をとりまく3次元風の場の解析
- A 361. 山崎信雄(気研・台風): 鉛直速度を補正する方法
座長 露木 義(気象庁・長期予報)
- A 362. *森 一正(気研), 加藤 徹(気象庁・海務), 田中 実・丸山健人・本多庸浩(気研): 西部熱帯太平洋域における, 1990年11月, 1991年1月のクラウドクラスターのレーダー観測——凌風丸レーダーを使って——
- A 363. 川村隆一(防災科研): 海洋大陸付近の対流活動の短周期変動
- *A 364. *高蔽 縁(国立環境研), 新田 勳(気大): 中～西部熱帯太平洋域における積雲活動の短周期変動の解析
- *A 365. *水野孝則(舞鶴海洋), 新田 勳(気大): スーパークラスターに及ぼす海洋大陸のブロック効果

- *A366. 伊藤久徳(和歌山大・教育)：季節内振動の構造に対する非線形性と熱帯一中緯度間相互作用の役割
- A367. 井上豊志郎(気研・台風)：Split Window によるアラビア海の対流活動と海面温度について
- A368. *山根理子・住 明正(東大・理)：ECMWF の地表面フラックスデータの解析(第1報)
- A369. 和方吉信(東海大・海洋)：熱帯域水蒸気量の季節変化及び季節内変動について
- *A370. 隈 健一(気象庁・数値予報)：全球モデルによるオーストラリアモンスーンのオンセット予報に対する水蒸気解析の重要性
- A371. *冨田智彦・安成哲三(筑波大・地球科学)：エルニーニョの個性に関する一考察
- *A372. *長井嗣信・時岡達志・遠藤昌宏・北村佳照(気研)：ENSO：MRI 大気海洋結合モデルによるシミュレーション
- A373. 宮崎保彦(気象庁・長期予報)：太平洋域の海面水位と海水温との関係

B会場 大気化学

座長 竹内延夫(国立環境研)

- B351. *田中 茂・岡安俊樹・荻原隆朗・橋本芳一(慶大・理工)、林 和彦・土器屋由紀子(気大)、丸田恵美子(慶大・環境情報)、田村定義(慶応女子高)：首都圏における酸性雨に関する研究——その化学成分濃度と気象条件との関係——
- B352. *村尾直人・太田幸雄・溝口 勲・窪田和彦(北大・工)：札幌における PAN の濃度変動
- B353. *鶴田治雄(農環技研)、太田正雄(横浜市公害研)：乗鞍岳におけるガス・霧水・雲水・雨水中の化学成分の測定——アルデヒド類、オゾン、過酸化水素の挙動——
- *B354. *畠山史郎・秋元 肇・鷲田伸明(国立環境研)：光化学オキシダント生成に対する温度の効果——大気質に対する地球温暖化の影響
- B355. 内野 修・牧野行雄(気研)、*柴田 隆・増子治信(通信総研)：カナダ北極域における大気観測計画
- B356. *斎藤三行・富樫 寛・永田洋二・香川岳宏・佐藤 真(気象庁・観測)：気象庁の大気バックグラウンド汚染観測について
- B357. 中澤高清・*橋田 元・村山昌平・田中正之(東北大・理)、青木周司・山内 恭・川口貞真(極

地研)、清水 明(国立環境研)、林 政彦(名大・STE 研)：『しらせ』による大気及び表面海水中の二酸化炭素分圧の測定

- *B358. 中澤高清・*森本真司・田中正之(東北大・理)、青木周司(極地研)：日本上空における二酸化炭素の同位体比 $\delta^{13}\text{C}$ の変動
- B359. 石川義紀(関西空港調査会)、坂本高志(交通安全公害研)、佐野方昂(愛知公害センター)、*鶴田治雄(農環技研)、西岡秀三(国立環境研)、平木隆年(兵庫公害研)、溝口次夫(国立環境研)、陽 捷行(農環技研)、森 保文(国立環境研)、安田憲二(神奈川公害センター)、佐藤 雄也・滝村 朗・志々目友博・大村 卓(環境庁)：日本におけるメタンの排出量の推定(その2)
- *B360. 中澤高清・菅原 敏・橋田 元・酒井千春・田中正之(東北大・理)：日本上空におけるメタン濃度の変動
- *B361. 中澤高清・*町田敏暢・田中正之(東北大・理)、藤井理行・青木周司・渡辺典亜(極地研)：グリーンランド site-J コアから推定された北半球における過去の大气中メタン濃度の変動

オゾン

座長 内野 修(気研・衛星観測)

- B362. *堤 之智・牧野行雄(気研・物理)、廣田道夫(気象庁・海洋)：筑波におけるオゾンとメタン地表濃度の温度、日射量依存度について
- B363. 鈴木 睦(国立環境研)、中島映至(東北大)：太陽掩蔽法衛星観測の誤差要因の予備的検討
- *B364. 高橋修二・*岡野章一・田口 真・亀掛川幸浩・福西 浩(東北大・理)：NOAA 衛星 TOVS データを用いたオゾン全量水平分布の導出
- B365. *藤本敏文・内野 修・水野芳成(気研・衛星観測)：ライダーによる成層圏オゾンの観測
- *B366. *田口 真・岡野章一・福西 浩(東北大・理)：レーザーヘテロダイン分光計による対流圏界面付近のオゾン変動の観測
- B367. 忠鉢 繁(気研・物理)：南極昭和基地におけるオゾン垂直分布と成層圏気温の関係
- B368. 忠鉢 繁(気研・物理)：ニンバス7号 TOMS によるオゾン全量マップのアニメーション
- B369. 川平浩二(富山高専)、廣岡俊彦(気大)：オゾンホールと関連した力学場の変動——定常波と

平均風の変化——

- B 370. *秋吉英治 (福岡大・理), 瓜生道也 (九大・理) : 簡単な 2 次元モデルによるグローバルオゾンの季節変動の理解とオゾンホール (統報)
- B 371. *小池 真・近藤 豊・岩坂泰信・岩田 晃(名大・STE 研), 杉村行勇・牧野行雄 (気研) : 航空機による上部対流圏 NO_y の観測
- B 372. *比留間文彦・松田 学・土屋 清 (千葉大), 鈴木 睦・竹内延夫 (国立環境研) : TOMS データに現れる台風パターンの分類
- B 373. *竹内延夫 (国立環境研), 松田 学・比留間文彦・土屋 清 (千葉大) : TOMS データに現われる台風パターンの検討

C 会場 局地循環

座長 里村雄彦 (気研・応用)

- *C 351. *佐々木有子・力石國男 (弘前大・理) : 東北地方の風の日変化 (I)
- *C 352. *力石國男・佐々木有子 (弘前大・理) : 東北地方の風の日変化 (II)
- C 353. *桑形恒男・近藤純正 (東北大・理), 住岡昌俊 (三菱銀行) : 海風進入時の沿岸部における昇温過程 (2)
- C 354. 藤部文昭 (気研・予報) : 台風時の南東風に伴う関東平野のメソ前線——事例と統計
- *C 355. 木村富士男・桑形恒男 (東北大・理) : 峠を越える熱的局地風
- C 356. 水間満郎 (京大・原子炉) : スペクトル法による海陸風数値モデルの構築 (V)
- *C 357. 大河内康正 (八代高専) : 二次元海風モデルの無次元量依存性
- *C 358. *余 偉明 (計算流体力学研), 植田洋匡 (九大), 河村 武 (筑波大) : K-ε 乱流モデルを用いた海陸風の重力流の数値実験 (その 4) Internal gravity waves (internal bores) と sea-

breeze cutoff vortex の形成・消散における一般場の影響について

- *C 359. 齊藤和雄 (気研・予報) : やまじ風の数値的研究 (2)——鞍部のある山脈を越える流れの非線形領域の振舞——
- C 360. 高橋俊二 (気研・応用) : 局地循環に及ぼす雲の効果
- *C 361. 栗田 進 (気研・応用) : 大気中のカルマン渦の基本的な特徴

大気汚染

座長 山澤弘実 (原子力研)

- *C 362. 山澤弘実 (原子力研) : 筑波山周辺での拡散実験のシミュレーション計算
- C 363. 山田慎一 (気象庁・数値予報) : 気象庁の新全球移流拡散モデルについて
- *C 364. 吉川友章・木村富士男・*里村雄彦・佐々木秀孝 (気研・応用), 村治能孝 (韓国国際気象海洋) : チェルノブイリ原発事故による放射性物質の拡散 局地モデルを使った計算
- C 365. 佐藤純次・里村雄彦・佐々木秀孝 (気研・応用), 村治能孝 (韓国国際気象海洋) : 乾燥沈着及び降水洗浄を考慮した長距離輸送モデル
- C 366. *村尾直人・太田幸雄・山形 定 (北大・工), 片谷教孝 (富士通 FIP ㈱), 岡本真一 (東京情報大), 小林恵三 (産産業公害防止協会) : 東アジア地域を対象とした酸性降水モデルの感度解析
- *C 367. *木下紀正・細山田三郎 (鹿児島大・教育) : 桜島噴煙拡散の観測と解析
- C 368. *佐橋 謙 (岡山大・教育), 山下栄次 (岡山理大・理), 藤沢甲子雄 : 係留気球による NO_x の鉛直分布の測定
- C 369. 加藤真規子 (気研・物理) : 横方向風向変動を取り入れた場合の鉛直方向拡散 (風洞実験)